

算数科 2年 年間指導計画

◇ 1学期

1. わかりやすく あらわそう [ひょうと グラフ] 上p.4~6

〔指導時期〕 4月中旬 〔指導時数〕 2時間

【単元の目標】 ○身の回りにある数量の特徴をとらえることに関心をもち、それらを分類整理して、簡単なグラフや表を用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。

- 関 ・身の回りにある数量を分類整理して、グラフや表に整理することのよさに気づき、活用しようとする。
- 考 ・数量を分類整理する方法や、グラフや表を用いて表す方法を考え工夫することができる。
- 技 ・身の回りにある数量を分類整理してグラフや表に表したり、それらを読み取ったりすることができる。
- 知 ・分類整理した数量をグラフや表を用いて表すことのよさについて理解する。

☆考えて欲しいこと ★考え方

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) ひょうと グラフ 上p.4~6 2時間			
1	○身の回りにある数量を分類整理して、グラフや一次元表に表したり、それらを読み取ったりすることができる。	・絵を見て、育てたい野菜ごとにグラフにまとめる。	関 グラフや表に表すと、それぞれの大きさが比べやすくなったり、違いを読み取りやすくなったりするなどのよさに気づいている。
2		・育てたい野菜ごとの人数を数え、表にまとめる。 ・グラフや表を読み、そのよさについて話し合う。 ☆グラフや表に表すことのよさを考える。	

* おぼえているかな? 上p.7 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	関既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

2. たし算の しかたを 考えよう [たし算の ひっ算] 上p.8~20

〔指導時期〕 4月中旬~5月上旬 〔指導時数〕 10時間

【単元の目標】 ○2位数の加法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いる能力を伸ばし、加法についての理解を深める。

- 関 ・2位数の加法計算について、筆算形式のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする。
- 考 ・2位数の加法の筆算の仕方を、図や式などを用いて考え表現することができる。
- 技 ・2位数の加法計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができる。
- 知 ・2位数の加法計算が1位数などの基本的な計算を基にしてできることを知り、その筆算の仕方について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) たし算(1) 上p.8~12 3時間			
1	<p>〔プロローグ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.8の写真を提示し、買い物場面を想定した話し合いを通して、既習の加減計算を振り返るとともに、2位数どうしの加減計算への興味・関心を高める。 ・ 所要時間は10分程度 <p>○2位数の加法計算の仕方を考えることを通して、加法の筆算の仕方を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・ 25+14の計算の仕方を考える。 ・ 各自の方法を発表し、検討する。 	<p>関既習の計算を基に2位数の加法計算の仕方を考え出そうとしている。</p> <p>関2位数の加法計算の仕方を、ブロックや式などを用いて数の仕組み(十進</p>

		★ブロック操作 ★分けて計算	位取り記数法)に着目して考え、説明している。
2		・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 ☆2位数+2位数=2位数(繰り上がりなし)の筆算の仕方。	図2位数+2位数=2位数(繰り上がりなし)の筆算の仕方を理解している。
3	○2位数+1, 2位数=2位数(繰り上がりなし, 空位, 欠位あり)の筆算の仕方を理解し, その計算ができる。	・30+24の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・32+4の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ☆2位数+1, 2位数=2位数(繰り上がりなし, 空位, 欠位あり)の筆算の仕方。	図2位数+1, 2位数=2位数(繰り上がりなし, 空位, 欠位あり)の筆算ができる。
(2) たし算(2) 上p.13~15 4時間			
4	○2位数+2位数=2位数(繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し, その計算ができる。	・問題場面から数量の関係をとらえ, 立式する。 ・37+28の筆算の仕方を考える。 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明	図繰り上がりのある場合の加法の筆算の仕方について, 式や言葉などを用いて考え, 説明している。
5		・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。	
6	○2位数+1, 2位数=2位数(繰り上がりあり, 答えの一の位に空位あり, 欠位あり)の筆算の仕方を理解し, その計算ができる。	・28+32の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・28+6の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。	図2位数+1, 2位数=2位数(繰り上がりあり, 答えの一の位に空位あり, 欠位あり)の筆算ができる。
7	○問題づくりに取り組むことを通して, 2位数+1, 2位数=2位数(繰り上がりあり)の筆算の仕方の理解を確実にする。	・問題づくりに取り組む。	図2位数+1, 2位数=2位数(繰り上がりあり)の筆算ができる。
(3) たし算の きまり 上p.16~17 1時間			
8	○加法について交換法則が成り立つことを理解する。	・問題場面から数量の関係をとらえ, テープ図を完成させる。 ・テープ図を基に立式する。 ・17+24=41と24+17=41の2つの式を比べて, 気づいたことを発表する。 ・加法計算をして, 交換法則を用いて答えを確かめる。	図加法について交換法則が成り立つことを理解している。
まとめ 上p.18~20 2時間			
9	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	図学習内容を適用して, 問題を解決することができる。
10	○学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

3. ひき算のしかたを考えよう [ひき算のひっ算] 上p.21~31

〔指導時期〕 5月上旬~下旬 〔指導時数〕 10時間

- 【単元の目標】 ○2位数の減法の筆算の仕方について理解し, 確実にできるようにするとともに, それを用いる能力を伸ばし, 減法についての理解を深める。
- 関・2位数の減法計算について, 筆算形式のよさに気づき, 生活や学習に活用しようとする。
- 考・2位数の減法の筆算の仕方を, 図や式などを用いて考え表現することができる。

図・2位数の減法計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができる。

知・2位数の減法計算が1位数などの基本的な計算を基にしてできることを知り、その筆算の仕方について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) ひき算(1) 上p. 21～24 3時間			
1	○2位数の減法計算の仕方を考えることを通して、減法の筆算の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・$39-15$の計算の仕方について考える。 ・各自の方法を発表し、検討する。 ★ブロック操作 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明 	図既習の計算を基に2位数の減法計算の仕方を考え出そうとしている。 図2位数の減法計算の仕方を、ブロックや式などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え、説明している。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 	図2位数-2位数(繰り下がりなし)の筆算の仕方を理解している。
3	○2位数-1, 2位数(繰り下がりなし, 空位, 欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・$37-27$, $37-35$の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・$37-5$の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 	図2位数-1, 2位数(繰り下がりなし, 空位, 欠位あり)の筆算ができる。
(2) ひき算(2) 上p. 25～27 4時間			
4	○2位数-2位数(繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・$45-18$の筆算の仕方を考える。 ★ブロック操作 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明 	図繰り下がりのある場合の減法の筆算の仕方について、式や言葉などを用いて考え、説明している。
5		<ul style="list-style-type: none"> ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 	
6	○2位数-1, 2位数(繰り下がりあり, 空位, 欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・$40-18$, $45-38$の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・$45-8$, $40-8$の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 	図2位数-1, 2位数(繰り下がりあり, 空位, 欠位あり)の筆算ができる。
7	○問題づくりに取り組むことを通して、2位数-1, 2位数(繰り下がりあり)の筆算の仕方の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題づくりに取り組む。 	図2位数-1, 2位数(繰り下がりあり)の筆算ができる。
(3) ひき算の きまり 上p. 28～29 1時間			
8	○減法と加法の関係を理解し、答えの確かめに用いることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、テープ図を完成させる。 ・テープ図を基に立式し、答えを求める。 ・$41-15$の答え26に減数の15をたした結果を被減数と比べる。 ・減法計算をして、減法と加法の関係をを用いて答えを確かめる。 ☆減法の答えと減数を足すと、被減数になること。 	図減法と加法の関係をを用いると、減法の答えを加法で確かめられることを理解している。
まとめ 上p. 30～31 2時間			
9	○学習内容を適用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 	図学習内容を適用して、問題を解決することができる。
10	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげ」に取り組む。 	図基本的な学習内容を身につけている。

* 「どんな計算になるのかな？」 上p. 32～33 2時間

1	○2位数の加減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。	・問題文を読み、どのような式になるかを考えて解決する。 ・絵を見て作問し、友達と問題を出し合うなどして解決する。	○既習を活用して、どのような式で解決すればよいかを考えようとしている。 ○適切な立式をして、問題を解決することができる。
2			

4. 長さを はかろう [長さの たんい] 上p. 34～46

〔指導時期〕 5月下旬～6月上旬 〔指導時数〕 10時間

- 【単元の目標】
- 長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、長さの測定ができるようにするとともに、長さについて量の感覚を身につけられるようにする。
 - 身の回りにあるものの長さに関心を持ち、量感を基に見当をつけて測定しようとする。
 - 普遍単位の必要性に気づき、長さの表し方を考え表現することができる。
 - 長さの単位を用いて、身の回りの具体物の長さを測定したり、指定された長さの直線をひいたりすることができる。
 - 長さについて単位と測定の意味や、単位の関係、物差しを目盛りの仕組みを理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 長さの あらわし方と はかり方 上p. 34～36 3時間			
1	○ 普遍単位の必要性に気づき、長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、その読み方や書き方を理解する。	・ 絵を見て、3本の直線の長短を予想する。 ・ 3本の直線の長さを比較する方法を考える。 ・ ②の線の長さの表し方を考える。 ・ 任意単位での比較では限界があることについて話し合う。 ☆ 正確に比較すること。 ☆ 消しゴム○個分では、半端な数になるところが比較しづらいこと。	○ 任意単位の限界や普遍単位の必要性に気づき、長さの表し方を考え、説明している。 ○ 長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、その読み方や書き方を理解している。
2		・ 長さの単位「センチメートル (cm)」を知る。 ・ 2cmは1cmの2つ分、3cmは3つ分、…であることをおさえながら、1cm目盛りの簡易物差しを目盛りの数を書き込む。	
3	○ 簡易物差しによる測定活動を通して、測定の仕方を身につける。	・ 1cm目盛りの簡易物差しで、いろいろなものの長さをはかる。 ・ 手や指で10cmの長さをつくり、身の回りから10cmの長さのものを見つける。	○ 簡易物差しを使って、長さをcmの単位を用いて測定することができる。
(2) 長さの たんい 上p. 39～43 4時間			
4	○ 長さを表す単位「ミリメートル (mm)」を知り、1cm=10mmの関係を理解する。	・ 葉書の縦の長さをはかり、1cm未満の長さの表し方を考える。 ・ 1cmを10等分した1つ分の長さを「1ミリメートル」といい、「1mm」と書くことを知る。 ・ 1cm=10mmの関係を確認する。 ☆ 1cmに足りない長さの表し方。	○ 1cmに満たない長さを表すのに、新たな下位単位の必要性に気づいている。 ○ 長さを表す単位「ミリメートル (mm)」とその読み方や書き方、1cm=10mmの関係を理解している。
5	○ 物差しを目盛りの読み方を理解し、長さの測定の仕方に習熟する。	・ 物差しを目盛りを読む練習をする。 ・ 物差しを使って、いろいろなものの長さをはかる。	○ 身の回りにあるものの長さに関心を持ち、量感を基に見当をつけて測定しようとしている。

			図長さをcmやmmの単位を用いて測定することができる。
6	○直線の意味を知り、指定された長さの直線を、物差しを使ってひくことができる。	・「直線」の意味を知る。 ・「センチメートル (cm)」、「ミリメートル (mm)」を用いて、直線の長さを表す。	図指定された長さの直線を、物差しを使ってひくことができる。 図直線の意味を理解している。
7		・物差しを用いた直線のひき方を練習する。 *デジタルコンテンツがあります。	
(3) 長さの計算 上p. 44 1時間			
8	○長さの加減計算の仕方を理解する。	・折れ線全体の長さや2本の折れ線の長さの差を、加減計算を適用して求める。	図長さの加法性や、同じ単位の数どうしを計算すればよいことを理解している。
まとめ 上p. 45~46 2時間			
9	○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、長さについての興味を広げる。	・[やってみよう] 物差しを使って、いろいろなものの長さをはかり、測定結果を記録してまとめ、発表し合う。 ・「算数のおはなし」を読み、長い直線のひき方について知り、算数への興味・関心を高める。	図学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。
10	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

***おぼえているかな? 上p. 47 時数配当なし**

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	図既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

5. 100より大きい数をしらべよう [3けたの数] 上p. 48~63

〔指導時期〕6月上旬~6月下旬 〔指導時数〕13時間

- 【単元の目標】**
- 1000までの数について、その意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深めるとともに、数を用いる能力を伸ばす。
 - 関・10や100のまとまりにして数えるよさに気づき、十進位取り記数法と関連づけてとらえたり、計算の仕方に活用したりしようとする。
 - 考・十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりすることができる。
 - 技・3位数について、書いたり読んだりするとともに、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表すことができる。
 - 知・3位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解する。

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 数のあらし方としくみ 上p. 48~57 8時間			
1	○3位数の読み方や表し方を理解する。	・写真を見て、235個のクリップの数を工夫して数える。 ・235の数構成と命数法、記数法を知る。 ・クリップの数を数字で表す。 ・用語「百の位」を知る。	図クリップの数を10や100のまとまりにして数えようとしている。 図3位数を書いたり読んだりすることができる。 図3位数の読み方や表し方を理解している。
2		・206個のブロックの数を数字で表す。 ・棒や色紙の数を数字で表す。 ・3位数を書いたり読んだりする。	
3	○数カードを並べて数を表すことを通して、3位数の位取	・位取り板と数カードを使って、各位の数を読み取ったり、3位数を数カードで表した	図3位数の構成を等式で表すことができる。

	りの仕組みや数の構成を理解する。	りする。	図3位数の各位の数字はそれぞれ100, 10, 1の単位の個数を示し, 10以上の数が入らないことを理解している。
4		<ul style="list-style-type: none"> ・3位数の構成を基にした表し方(合成・分解)を練習する。 ・3位数の構成を, 等式を使って表す。 	
5	○数の相対的な大きさを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・10円玉が14枚でどれだけになるかを, 10を単位にして考える。 ・230円は10円玉で何枚になるかを, 10を単位にして考える。 ★10を単位にして。 	図230などの数を, 10を単位としてとらえることができる。
6	○数直線の読み取りを通して, 3位数の大小, 順序を理解する。	・数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり, 数直線上に数を表したりする。	図数直線上に表された数を読んだり, 数を数直線上に表したりすることができる。
7	○1000の構成, 数の読み方, 書き方及び1000付近の数を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・図の●の数を工夫して数え, 百を10こ集めた数を「千」といい, 「1000」と書くことを知る。 ☆十を10個集めた数が100だったこと。 	図百を10こ集めた数を「千」といい, 「1000」と書くこと, 及び1000付近の数を理解している。
8	○1000までの数の構成を多面的にとらえ, 数の見方を豊かにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・780のいろいろな見方を表現する。 ・50とびで数を唱えたり, 大きい数から小さい数へ順に2とびで唱えたりする活動に取り組む。 	図1000までの数の多様な見方について考え, 説明している。
(2) 何十, 何百の 計算 上p. 58~59 1時間			
9	○何十±何十, 何百±何百などの計算の仕方を理解し, その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・10枚の束の色紙の絵を見て, $50+70$, $120-30$の計算の仕方を考える。 ・100枚の束の色紙の絵を見て, $300+200$, $600-200$の計算の仕方を考える。 ・数の構成(100がいくつ)に基づいて, 計算の仕方を考える。 ・数の構成(何百といくつ)に基づいて, $500+30$などの計算の仕方を考える。 ☆十がいくつ, 百がいくつのまとまりであること。 	<p>図何十±何十, 何百±何百などの計算の仕方を, 数の構成に着目して考え, 説明している。</p> <p>図何十±何十, 何百±何百などの計算ができる。</p>
(3) 数の 大小 上p. 60~61 2時間			
10	○不等号「 $>$ 」「 $<$ 」を知り, 数の大小関係を式に表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの学校の児童数の大小を比較する。 ・不等号「$>$」「$<$」を用いた式の表し方を知り, 数の大小を不等号を用いて表す。 	<p>図数の大小関係を不等号を用いて式に表すことができる。</p> <p>図不等号「$>$」「$<$」の意味を理解している。</p>
11	○数や式の大小, 相等関係を不等号, 等号を用いて式に表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み, 150円で買える品物を調べる。 ・数と式の大小, 相等関係の表し方を知る。 	図数や式の大小, 相等関係を不等号, 等号を用いて式に表すことができる。
まとめ 上p. 62~63 2時間			
12	○算数的活動を通して学習内容の理解を深め, 数についての興味を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・[やってみよう]以下の活動に取り組む。 ・身の回りから3位数までの数が使われている場面を探し, 数には, ものの大きさを表しているものと, 表していないものがあることを知る。 ・数比べゲームに取り組む。 	図学習内容を適切に活用して, 活動に取り組もうとしている。
13	○学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

6. 水の かさを はかろう [水の かさの たんい] 上p.64~72

[指導時期] 6月下旬~7月上旬 [指導時数] 8時間

- 【単元の目標】**
- 体積の測定などの活動を通して、長さの学習を基に単位の意味と測定の原理を理解し、体積の測定ができるようにするとともに、体積について量の感覚を身につけられるようにする。
 - 関・身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心をもち、量感を基に見当をつけて測定しようとする。
 - 考・長さの学習を基に、体積の普遍単位の必要性に気づき、体積の表し方を考え表現することができる。
 - 技・体積の単位を用いて、身の回りにある入れ物に入る水の体積を測定することができる。
 - 知・体積について単位と測定の意味や、単位の関係を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 水の かさの たんい 上p.64~72 6時間			
1	[プロローグ] ・ p.64のコマ絵を提示し、2人の比べ方について話し合い、個別の任意単位による比較の限界に気づかせる。 ・ 所要時間は10分程度		
	○ 普遍単位の必要性に気づき、体積を表す単位「デシリットル (dL)」を知り、その読み方や書き方を理解する。	・ プロローグの話し合いを受けて、同じ大きさのプリンカップで2つの水筒に入る水の体積を比較する。 ・ 共通の任意単位で2つの水筒に入る水の体積を数値化する。 ・ 共通の任意単位であっても、比較の限界があることを知る。 ☆プリンカップ○個分で表しきれないこと。	関長さの学習を基に、体積について任意単位の限界や普遍単位の必要性を考えようとしている。 関容器に入る水の体積を1dLのますではかることができる。 関体積を表す単位「デシリットル (dL)」を知り、その読み方や書き方を理解している。
2		・ 体積の単位「デシリットル (dL)」を知る。 ・ 水筒に入る水の体積をdLを使って表す。 ・ 身の回りの容器に入る水の体積を1dLのますではかる。	
3	○ 体積を表す単位「リットル (L)」について知り、1L=10dLの関係を理解する。	・ 大きな紙パックに入る水の体積を調べる。 ・ 体積の単位「リットル (L)」を知り、1L=10dLの関係を確認する。	関数の位取りの学習を基に、体積の上位単位を考えようとしている。 関体積を表す単位「リットル (L)」を知り、1L=10dLの関係を理解している。
4	○ LやdLを用いた体積の表し方を理解する。	・ L, dLを用いて、体積を表す。	関LやdLを用いた体積の表し方を理解している。
5	○ 体積を表す単位「ミリリットル (mL)」について知り、1L=1000mLの関係を理解する。	・ 絵を見て、1dLより少ないはしたの表し方に着目する。 ・ 体積の単位「ミリリットル (mL)」を知り、1L=1000mLの関係を確認する。 ・ 身の回りから、LやmLの表示がされている容器を探す。	関体積を表す単位「ミリリットル (mL)」を知り、1L=1000mLの関係を理解している。
6	○ 体積の加減計算の仕方を理解する。	・ 2つの水筒に入る水の体積の和や差を加法や減法を用いて求める。	関体積の加法性や、同じ単位の数どうしを計算すればよいことを理解している。
まとめ 上p.71~72 2時間			
7	○ 算数的活動を通して学習内容の理解を深め、体積についての興味を広げる。	・ [やってみよう] ペットボトルで1Lのますを作り、いろいろな容器に入る水の体積をはかる。	関学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。
8	○ 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・ 「しあげ」に取り組む。	関基本的な学習内容を身につけている。

*おぼえているかな? 上p. 73 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	☑既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

7. 時計を生活に生かそう [時こくと時間] 上p. 74~77

【指導時期】 7月中旬 【指導時数】 2時間

【単元の目標】 ○時刻と時間の概念、日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、それらを日常生活に用いることができるようにする。

- ☑ 日常生活の中で必要な時刻や時間を求めようとする。
- ☑ 時刻と時間の求め方を考え表現することができる。
- ☑ 時刻や時間を求めたり、表したりすることができる。
- ☑ 時刻と時間の区別、及び日、時、分の単位やそれらの関係を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 時こくと時間 上p. 74~77 2時間			
1	○「時刻」「時間」の意味や、時、分の関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、各場面の時刻を読む。 ・図を見て、「時刻」と「時間」の意味の違いを考える。 ・簡単な場合の時刻や時間を求める。 ・1時間=60分であることを知る。 *デジタルコンテンツがあります。 ☆「時刻」と「時間」の意味の違いをもとに、求め方を決定すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑時刻と時間の求め方を考え、説明している。 ☑時刻と時間の意味や、1時間=60分の関係を理解している。
2	○「午前」「午後」の意味や、日、時の関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、同じ読み方の時刻が1日に2回あることに気づき、「午前」と「午後」の意味を知る。 ・午前、午後ともに12時間あることから、1日=24時間であることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑午前、午後を用いて時刻を表すことができる。 ☑午前、午後の意味や、1日=24時間の関係を理解している。

*おぼえているかな? 上p. 78 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	☑既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

◇2学期

8. 計算のしかたをくふうしよう [計算のくふう] 上p. 79~82

【指導時期】 9月上旬 【指導時数】 4時間

【単元の目標】 ○加法の結合法則、簡単な加減の暗算の仕方を理解することを通して、加減計算についての理解を深め、それを用いる能力を伸ばす。

- ☑ 計算法則、数の見方や構成を活用するよさに気づき、計算の仕方を工夫しようとする。
- ☑ ()の中を1つの数とみて、式の意味を考え表現したり、場面を式に表したりすることができる。
- ☑ 3口の数の加法計算について、結合法則などを基に、工夫して計算することができる。
 - ・簡単な加減法の暗算ができる。
- ☑ 加法の結合法則や () の用い方を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 3つの数の計算 上p.79~81 2時間			
1	○加法の結合法則と、()の 用い方を理解し、3口の数の 加法計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・$15+40+30$の計算の仕方を考える。 ・()の用い方を知り、それを使って考えを式に表し、加法計算をする。 ・加法ではたす順序を変えても答えは同じになることをまとめる。 ★図を使って説明 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明	㊦結合法則などを基に、3口の数の加法計算の仕方を工夫しようとしている。 ㊧()の用い方や加法の結合法則を理解している。
2	○3口の数の加法計算の場面 を()を用いた式に表す こと、及び()を用いた 式から考えを読み取ること ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量関係をとらえ、()を用いて3口の加法の式を立てる。 ・()を用いた式を読み、どのように考えたかを説明する。 ★図を使って説明 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明 ☆式から、表す意味をとらえること。	㊨3口の数の加法の場面を()を用いた式で表したり、()を用いた式から考えを読み取ったりすることができる。
(2) たし算とひき算 上p.82 2時間			
3	○簡単な加減法の暗算の仕方を 理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・$26+7$の計算を加数分解や被加数分解で暗算する。 ・加法の暗算の練習問題に取り組む。 ★加数分解 ★被加数分解	㊩数の見方や構成を活用して、暗算の仕方を考えようとしている。 ㊪2位数±1位数の暗算ができる。
4		<ul style="list-style-type: none"> ・$42-7$の計算を工夫して暗算する。 ・減法の暗算の練習問題に取り組む。 ☆減数の7を2と5に分けること。	

*** おぼえているかな? 上p.83 時数配当なし**

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	㊫既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

9. ひっ算のしかたを考えよう [たし算とひき算のひっ算] 上p.84~97

〔指導時期〕 9月上旬～9月下旬 〔指導時数〕 11時間

- 【単元の目標】**
- 既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それをを用いる能力を伸ばす。
 - 筆算形式による3位数+1, 2位数(百の位への繰り上がりなし), 3位数-1, 2位数(百の位からの繰り下がりなし)の計算の仕方について理解する。
- ㊬・2, 3位数の加減の筆算のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする。
- ㊭・既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を考え表現することができる。
- ㊮・2位数の加法及びその逆の減法の計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができる。
- ㊯・2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などの基本的な計算を基にできることを知り、それらの筆算の仕方について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) たし算のひっ算 上p.84~88 3時間			
1	【プロローグ】 ・ p.84の絵から場面を把握し、メダルの数を考えることを通して既習事項を振り返るとともに、p.85の問題への興味・関心を高める。		

	・所要時間は15分程度		
	○2位数+2位数=3位数（百の位への繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・83+46の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 ★既習の加法の筆算 ☆十の位からも繰り上がりが必要な場合があること。	㊦ 既習の加法との違いをとらえ、既習の筆算の仕方を基に、2位数+2位数=3位数（百の位への繰り上がりあり）の筆算の仕方を考えようとしている。 ㊦ 2位数の加法の計算が1位数の計算を基にしてできることを理解している。
2	○2位数+2位数=3位数（十、百の位への繰り上がりあり）や、2位数+1、2位数=3位数（百の位への波及的繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・76+58の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 ・46+57、93+8の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 ★既習の加法の筆算 ☆百の位へ波及的繰り上がりがあること。	㊦ 既習を基に、2位数+2位数=3位数（十、百の位への繰り上がりあり）や、2位数+1、2位数=3位数（百の位への波及的繰り上がりあり）の筆算の仕方を考え、説明している。 ㊦ 2位数+2位数=3位数（十、百の位への繰り上がりあり）や、2位数+1、2位数=3位数（百の位への波及的繰り上がりあり）の筆算ができる。
3	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	㊦ 学習内容を適用して、問題を解決することができる。
(2) ひき算の ひっ算 上p. 89~93 4時間			
4	○3位数-2位数（百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・129-53の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 ★㊦を使って説明 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明	㊦ 既習の減法との違いをとらえ、既習の筆算の仕方を基に、3位数-2位数（百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を考えようとしている。 ㊦ 3位数-2位数の計算が1位数の計算を基にしてできることを理解している。
5	○3位数-2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・146-89の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 ★既習の減法の筆算 ☆十の位からも繰り下がりが必要な場合があること。	㊦ 既習を基に、3位数-2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を考え、説明している。 ㊦ 3位数-2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算ができる。
6	○3位数-1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・102-65の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 ★既習の減法の筆算 ☆十、百の位から波及的繰り上がりがあること。	㊦ 既習を基に、3位数-1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を考え、説明している。 ㊦ 3位数-1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算ができる。
7		<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習をする。 ・文章題に取り組む。 	
(3) 大きい数の ひっ算 上p. 94~95 2時間			
8	○3位数+1、2位数（百の位への繰り上がりなし）や3位数-1、2位数（百の位からの繰り下がりなし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・415+32の筆算の仕方を、15+32を基に考える。 ・348-25の筆算の仕方を、48-25を基に考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 	㊦ 3位数±1、2位数の筆算の仕方が、1位数などの基本的な計算を基にしてできることを理解している。

	※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。	★式を使って説明 ★言葉を使って説明 ・ $18+345$, $526+9$ の筆算の仕方を考え、それらの計算練習をする。 ・ $483-27$, $524-6$ の筆算の仕方を考え、それらの計算練習をする。 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明	
まとめ 上p.96~97 2時間			
10	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	☑学習内容を適用して、問題を解決することができる。
11	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	☑基本的な学習内容を身につけている。

10. 形をしらべよう [長方形と正方形] 上p.98~109

【指導時期】 9月下旬～10月上旬 【指導時数】 9時間

- 【単元の目標】**
- 平面図形に親しみ、図形についての感覚を豊かにするとともに、三角形、四角形などの構成要素をとらえ、それらの意味や性質を理解する。
 - ☑ 身の回りにあるものの形の中から、三角形や四角形、長方形や正方形などを見つけようとする。
 - ☑ 辺や頂点などの構成要素に着目して、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見出すことができる。
 - ☑ 紙を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりすることができる。
 - ☑ 三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 三角形と 四角形 上p.98~101 3時間			
1	[プロローグ] ・ p.123のパズルを使い、p.98に示されたいろいろな形を作ることを通して、平面図形に親しむとともに、興味・関心を高める。 ・ 所要時間は30分程度		
2	○ 辺や頂点の数に着目して図形を分類する活動を通して、三角形、四角形の意味や性質を理解する。	・ 辺や頂点の数に着目して、パズルの各ピースを仲間分けする。 ・ 「三角形」、「四角形」の意味や性質を理解する。 ・ 用語「辺」「頂点」を知る。	☑ 図形の辺や頂点の数に着目して、図形を分類しようとしている。 ☑ 三角形、四角形の意味や性質を理解している。
3	○ 図形を弁別する活動などを通して、三角形、四角形についての理解を確実にする。	・ 三角形、四角形を弁別する。 ・ 格子点を直線で結んで、三角形や四角形などの基本図形を構成する。 ★ 辺の数 ★ 頂点の数 ☆ 辺の数が3本で頂点が3つだから三角形。 ☆ 辺の数が4本で頂点が4つだから四角形。	☑ 構成要素などを観点として、三角形や四角形の弁別の仕方を考え、説明している。 ☑ 三角形や四角形を弁別したり、格子点を結んで作図したりすることができる。
(2) 長方形と 正方形 上p.102~107 4時間			
4	○ 直角の意味を知り、身の回りから直角を見つけることができる。	・ 身の回りから四角形の形をしたものを探す。 ・ 紙を折って直角を作る。 ・ 操作を通して、平角を2等分した形を「直角」ということを知る。 ・ 身の回りから直角を探す。	☑ 身の回りにあるものの形の中から直角を見つけようとしている。 ☑ 紙を折って直角を作ることができる。
5	○ 長方形を構成要素に着目して見ることを通して、長方	・ 不定形の紙を折って長方形を作る。 ・ すべてのかどが直角であることを確かめ	☑ 図形の置かれた位置に関係なく、長方形の意味や性質を見出し、説明し

	形の意味や性質を理解する。	る。 ・「長方形」の意味や性質をまとめる。 ・長方形を弁別する。 ★4つのかどが直角 ☆4つのかどが直角になる四角形のこと。	ている。 図長方形は4つのかどが直角になっている四角形で、対辺の長さが等しいことを理解している。
6	○正方形を構成要素に着目して見ることを通して、正方形の意味や性質を理解する。	・長方形の紙を折ってはみだした部分を切り取って正方形を作る。 ・すべてのかどが直角で、すべての辺の長さが等しいことを調べる。 ・「正方形」の意味や性質をまとめる。 ・正方形を弁別する。 ★4つのかどが直角で、4辺の長さが等しい ☆4つのかどが直角で、4辺の長さが等しい四角形のこと。	図図形の置かれた位置に関係なく、正方形の意味や性質を見出し、説明している。 図正方形は4つのかどが直角で、4辺の長さが等しい四角形であることを理解している。
7	○長方形、正方形を対角線で分割してできた三角形を、構成要素に着目して見ることを通して、直角三角形の意味や性質を理解する。 ○方眼を利用して、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	・長方形、正方形を対角線で分割してできた形について考える。 ・「直角三角形」の意味や性質をまとめる。 ・方眼を利用して、指定された長方形、正方形、直角三角形を作図する。 ★直角	図方眼を用いて、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。 図直角三角形は1つのかどが直角になっている三角形であることを理解している。
まとめ 上p.108~109 2時間			
8	○算数的活動を通して、学習内容の理解を深め、身の回りの形への興味を広げる。	・[やってみよう]※以下の活動に取り組む。 ・身の回りから長方形や正方形の形をしたものを探す。 ・合同な長方形や直角三角形などを使って敷き詰め模様を作る。	図学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。
9	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

*おぼえているかな? 上p.110 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	図既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

11. 新しい計算を考えよう [かけ算(1)] 下p.2~28

〔指導時期〕 10月中旬～11月下旬 〔指導時数〕 25時間

- 【単元の目標】
- 乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。
 - 関・乗法のよさに気づき、ものの全体の個数をとらえるときに乗法を用いようとする。
 - 考・累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現することができる。
 - 技・乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表すことができる。
 - ・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)を構成し、確実に唱えることができる。
 - 知・乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味について理解する。
 - ・乗法に関して成り立つ性質(乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則)を理解する。

時	ねらい	学習活動	おもな評価規準
1	[プロローグ]	*ICTの活用	
	・p.2の絵を提示し、遊園地の入り口付近で整列した人とばらばらの人の数を数えることを通して、全体の数量を求め		

	<p>るときの数えやすさに気づき、興味・関心を高める。</p> <p>・所要時間は10分程度</p>		
2	○「1つ分の数」「いくつ分」をとらえられるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、それぞれの乗り物に乗っている子どもの人数を調べる。 ・総数が同じでも1台に同じ人数ずつ乗っているものといないものがあることや、同じ人数ずつ乗っている場合でも1台に乗っている人数が違うことから、「1つ分の数」と「いくつ分」をとらえる。 ★同じ数のまとまりを作る。 ☆同じ数のまとまりに気づく。 	<p>図ものの全体の個数を、「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえるとよいことに気づき、数えようとしている。</p> <p>図数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、説明している。</p>
3	○「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵やおはじきを使って、全体の人数の求め方を言葉で説明する。 ・$5 \times 3 = 15$の式の意味を知る。 ・用語「かけ算」と記号「\times」を知る。 	<p>図具体物のまとまりに着目して、乗法の式に表すことができる。</p> <p>図乗法は、1つ分の数の大きさが決まっているときに、そのいくつ分かにあたる大きさを求める場合に用いられることを理解している。</p>
4		<ul style="list-style-type: none"> ・2, 3, 4, 5, のまとまりになっているものの写真を見て、乗法の式に表す。 ★場面を乗法の「ことばの式」に当てはめて考え、立式する。 	
5	○乗法の場面をおはじきや式で表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法の式から、その場面をおはじきで表す。 ・並んだおはじきを乗法の場面としてとらえ、乗法の式に表す。 ☆与えられた式をおはじきで表す。 	<p>図乗法が用いられる場面をおはじきや式で表すことができる。</p>
6	○乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとりえ、立式や答えの求め方について考える。 ・乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることをまとめる。 ★おかしを数えて答えを求める。 ★おはじきを動かして答えを求める。 ☆★アレイ図に描いて答えを求める。 ☆★加法の式に表して答えを求める。 	<p>図乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解している。</p>
7	○倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3cmの2つ分を、3cmの「2ばい」ということを知る。 ・3cmの2倍の長さを求めるときも、3×2のかけ算の式になることを知る。 	<p>図倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解している。</p>
8	○身の回りから、乗法で全体の個数を求められる場面を見出し、簡潔に表現できることのよさを実感する。	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから、かけ算の式になる場面を見出す。 ・どのような乗法の式になるかを、「1つ分の数」\times「いくつ分」=「全部の数」を基に説明する。 ☆身の回りにある場面が、どんなとき乗法の式を用いることができるか、言葉で説明する。 	<p>図身の回りから、乗法が用いられる場面を見出し、言葉や式で説明している。</p>
9	○学習内容を適用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 	<p>図学習内容を適用して、問題を解決することができる。</p>
(2) 5の段、2の段の九九 下p.13~16 6時間			
10	○5の段の九九の構成の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・お菓子が1箱に5個ずつ入っているときの1~4箱分の個数を求める。 ・累加や5とび、アレイ図などを用いて5の段 	<p>図5の段の九九を構成することができる。</p>

		の九九を構成する。 ★アレイ図 ★言葉の式	
11	○5の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・用語「九九」を知り、5の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 ・5の段の九九の答えは5ずつ増えていることを確認する。 	図5の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。
12		<ul style="list-style-type: none"> ・5の段の九九を用いて問題を解決する。 	
13	○2の段の九九の構成の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1皿にすすしが2個ずつ乗っているときの1～5皿分の個数を求める。 ・累加や2とび、アレイ図などを用いて2の段の九九を構成する。 ★アレイ図 ★言葉の式 ☆5の段の九九の構成の仕方を基に、2の段の九九を構成すること。	図5の段の九九の構成の仕方を基に、2の段の構成の仕方を考え、説明している。 図2の段の九九を構成することができる。
14	○2の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 ・2の段の九九の答えは2ずつ増えていることを確認する。 	図2の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。
15		<ul style="list-style-type: none"> ・2の段の九九を用いて問題を解決する。 	
(3) 3の段、4の段の九九 下p.17～23 7時間			
16	○3の段の九九の構成の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1パックに3個ずつ入っているプリンの1～4パック分の個数を求める。 ・3×4の答えにいくつたせば3×5になるかを考える。 ・3×5の答えに3をたせば3×6になることを活用して、3の段の九九を構成する。 ・用語「かけられる数」「かける数」を知る。 ★アレイ図 ★言葉の式 ☆乗法の性質を用いて、3の段の九九を構成すること。	図乗法について成り立つ性質を用いて、3の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。 図3の段の九九を構成することができる。
17	○3の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・3の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 ・3の段の九九の答えは、乗数が1増えると3増えることを確認する。 	図3の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。
18		<ul style="list-style-type: none"> ・3の段の九九を用いて問題を解決する。 	
19	○4の段の九九の構成の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1袋に4個ずつ入っているみかんの1～5袋分の個数を求める。 ・4×5のかける数が1増えると答えはいくつ増えているか確かめる。 ・4の段では、かける数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。 ★アレイ図 ★言葉の式 ☆乗法の性質を用いて、4の段の九九を構成すること。	図乗法について成り立つ性質を用いて、4の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。 図4の段の九九を構成することができる。
20	○4の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・4の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 ・4の段の九九の答えは、乗数が1増えると4増えることを確認する。 	図4の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。

21		・4の段の九九を用いて問題を解決する。	
22	○問題づくりによる、式の読みや式に表現することを通して、5, 2, 3, 4の段の理解を深める。	・ $2 \times 5 = 10$, $5 \times 2 = 10$ で表される問題の式と答えをそれぞれ考え、乗法の式の意味について理解を確かめる。 ★図を使って説明 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明 ☆乗法の式の意味を、説明すること。	図乗法の用いられる場面をとらえ、言葉や式で説明している。 図被乗数、乗数の意味を理解している。
まとめ 下p. 23~24 3時間			
23	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	図学習内容を適用して、問題を解決することができる。
24			
25	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。 ・p. 28の「算数のおはなし」を読み、分配法則について関心をもつ。	図基本的な学習内容を身につけている。

***九九ビンゴ 下p. 25 1時間**

1	○かけ算九九を活用して九九ビンゴに取り組み、かけ算九九の習熟を図る。	・九九ビンゴに取り組みながら、かけ算九九を習熟する。 *デジタルコンテンツがあります。	図かけ算九九を活用して、九九ビンゴに取り組もうとしている。
---	------------------------------------	--	-------------------------------

12. 九九をつくろう [かけ算(2)] 下p. 29~49

[指導時期] 11月下旬~12月中旬 [指導時数] 17時間

- 【単元の目標】**
- 乗法の意味について理解を深め、それを用いることができるようにする。
 - 図・乗法について成り立つ性質やきまりを用いることよき気づき、乗法九九の構成や計算の仕方を考えることに活用しようとする。
 - 考・乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現することができる。
 - 技・乗法九九(6, 7, 8, 9, 1の段)を構成し、確実に唱えることができる。
 - 知・乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にする。

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 6の段、7の段の九九 下p. 29~32 6時間			
1	○6の段の九九の構成の仕方を理解する。	・6の段の九九の構成の仕方について考える。 ・累加や乗数と積の関係など既習の考えを活用して、6の段の九九を構成する。 ★アレイ図 ★言葉の式 ☆乗法の性質を用いて、6の段の九九を構成すること。	図乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。
2	○6の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	・6の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 ・6の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。	図6の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質やきまりを考え、説明している。 図6の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。
3		・7の段の九九を用いて問題を解決する。	
4	○7の段の九九の構成の仕方を理解する。	・7の段の九九の構成の仕方について考える。 ・累加や積と乗数の関係に加え、交換法則な	図乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。

		<p>ど既習の考えを活用して、7の段の九九を構成し、九九表に答えを書く。</p> <p>★アレイ図 ★言葉の式</p> <p>☆乗法の性質を用いて、7の段の九九を構成すること。</p>	
5	○7の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	<p>・7の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。</p> <p>・7の段の九九を見直し、九九表やアレイ図を基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。</p> <p>☆九九表から乗法のきまりを見つけること。</p>	<p>図7の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質やきまりを考え、説明している。</p> <p>図7の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。</p>
6		<p>・7の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	
(2) 8の段、9の段、1の段の九九 下p. 33~36 5時間			
7	○8の段の九九の構成の仕方を理解する。	<p>・8の段の九九の構成の仕方について考える。</p> <p>・既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で8の段の九九を構成する。</p> <p>★アレイ図 ★言葉の式</p> <p>☆乗法の性質を用いて、8の段の九九を構成すること。</p>	<p>図乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、8の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。</p>
8	○8の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	<p>・8の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習をする。</p> <p>・8の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p>図8の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。</p>
9	○9の段の九九の構成の仕方を理解する。	<p>・9の段の九九の構成の仕方について考える。</p> <p>・既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で9の段の九九を構成する。</p> <p>★アレイ図 ★言葉の式</p> <p>☆乗法の性質を用いて、9の段の九九を構成すること。</p>	<p>図乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、9の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。</p>
10	○9の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	<p>・9の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習をする。</p> <p>・9の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p>図9の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。</p>
11	○1の段の九九を構成し、かけ算の意味の理解を確実にする。	<p>・場面をとらえ、1×6の式からかけ算の意味を確かめる。</p> <p>・1の段の九九を唱える。</p> <p>☆問題の場面から、かけ算の意味をとらえ、1の段の九九を構成すること。</p>	<p>図1の段の九九を構成することを通して、かけ算の意味を理解している。</p>
	○九九を、答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動を通して、九九の習熟・定着を図る。	<p>・九九を、答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動に取り組む。</p> <p>・「算数のおはなし」を読み、九九の由来について関心をもつ。</p>	<p>図学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。</p> <p>図九九を確実に唱えることができる。</p>
(3) ばいと かけ算 下p. 39 1時間			
12	○2cmの3倍の長さを求めたり、図を見て基準量の何倍かを考えたりし、「倍」についての理解を深める。	<p>・2cmの3倍の長さをかけ算を使って求める。</p> <p>・㊦、㊧のテープの図を見て、㊧のテープは㊦のテープの何倍かを考える。</p> <p>☆「いくつ分」が「倍」にあたること。</p>	<p>図図を見て、比較量が基準量の何倍になるかを考え、説明している。</p>

(4) 九九の ひょうと きまり 下p. 40~42 2時間			
13	○九九表からきまりを見つかる活動を通して、乗数と積の関係や、乗法の交換法則についての理解を深める。	・九九表を見て、これまで九九の構成で用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を確認する。 ・みほの吹き出しを読み、分配法則について調べる。 *デジタルコンテンツ	☑各段の九九を構成するときに用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を、乗法の性質やきまりとしてまとめようとしている。
14	○乗法の性質やきまりを用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を理解する。	☆九九表を基に、学習してきた性質やきまりを用いて、被乗数が2位数のかけ算について答えの求め方を考える。 ★乗法の性質 ★乗法の交換法則	☑乗数と積の関係や乗法の交換法則を用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明している。
(5) もんだい 下p. 43~47 1時間			
15	○乗法九九を総合的に活用して、問題を解決することを通して、九九の理解を深める。	・チョコレートの数のいろいろな求め方を、図を基に考える。 ・それぞれの考えを発表し、検討する。 ★図を使って説明 ★式を使って説明 ★言葉を使って説明 ☆かけ算を用いて工夫して解決すること。	☑ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、図などを使って説明している。
まとめ 下p. 48~49 2時間			
16	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	☑学習内容を適用して、問題を解決することができる。
17	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	☑基本的な学習内容を身につけている。
*おぼえているかな? 下p. 50~51 時数配当なし			
—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	☑既習内容について解決の仕方を理解している。

◇3学期

13. 1000より大きい数をしらべよう [4けたの数] 下p. 52~63

〔指導時期〕 1月中旬~下旬 〔指導時数〕 11時間

- 【単元の目標】**
- 10000までの数について、その意味や表し方を理解し、数の概念についての理解を深めるとともに、数を用いる能力をいっそう伸ばす。
 - ☑ 身の回りにある数に関心を持ち、十進位取り記数法のよさに気づいて、日常生活や計算の仕方に活用しようとする。
 - ☑ 十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりすることができる。
 - ☑ 4位数について、書いたり読んだりするとともに、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表すことができる。
 - ☑ 4位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解する。

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 数のあらし方としくみ 下p. 52~62 10時間			
1	○10000未満の数の数え方と命数法、記数法、4位数の位取りの仕組みを理解する。	・絵を見て、2354個の一円玉の数を工夫して数える。 ・2354の数構成と命数法を知る。	☑既習を基に、10や100と同じように1000のまとまりをつくって数え、数字を使って表そうとしている。
2		・数えた一円玉の数を数字で書き表す方法を考え、記数法を知る。 ・用語「千のくらい」を知る。 ★1000のまとまりを作る。	

3	○空位のある4位数の記数法を理解するとともに、4位数の位取りの仕組みの理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・2036を表す数カードを見て、その数を数字で表す。 ・4位数を読んだり書いたりする。 ☆既習の位取りの仕組みを基に、4位数の表し方を考えること。	図2位数、3位数の仕組みを基に、4位数の表し方を考え、説明している。 図4位数を読んだり書いたりすることができる。
4	○数カードをならべて数を表すことを通して、10000未満の数の構成について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・位取り板と数カードを使って各位の数を読み取ったり、4位数を数カードで表したりする。 	図4位数の構成を式で表したり、大小関係を不等号を用いて表現したりすることができる。
5		<ul style="list-style-type: none"> ・4位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習する。 ・4位数の構成を、等式を使って表す。 ・4位数の大小を、不等号を使って表す。 	図4位数の各位の数字はそれぞれ1000、100、10、1の単位の個数を示し、10以上の数が入らないことを理解している。
6	○数の相対的な大きさを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・100を18こ集めた数について考える。 ・2300は100をいくつ集めた数かについて考える。 ・数構成（100がいくつ）に基づいて、$800 + 700$や$1000 - 800$の計算をする。 ★100がいくつあるか ☆100を単位として加法や減法の答えを考える。	図2300などの数を、100を単位としてとらえることができる。
7	○数直線の読み取りを通して、4位数の大小、順序を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線の1目盛りの大きさや、指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。 ★1目盛りの表す数 ☆1目盛りの表す数をとらえ、指示された目盛りの数を読むこと。	図数の相対的な大きさの理解を基に、1目盛りを100（10）として数直線をとらえている。 図数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。
8	○10000の構成、数の読み方、書き方及び10000付近の数を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・図の●を工夫して数え、千を10こ集めた数を「一万」といい、「10000」と書くことを知る。 ★まとまりを作って数える	図数直線の目盛りの大きさを、数の相対的な大きさを基にとらえ、説明している。 図千を10こ集めた数を「一万」といい、「10000」と書くこと、及び10000付近の数を理解している。
9		<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。 ・数直線上で10000付近の数を読む。 ☆数直線で表された数から、相対的な大きさをとらえ、指示された目盛りの数を考えること。	
10	○10000までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・3800を、多様な見方にとらえ、言葉や式で表す。 ・500とびで数を数えたり、大きい数から小さい数へ順に2とびで唱えたりする。 ★言葉を使って説明 ★式を使って説明 ☆既習を基に、10000までの数の表し方を考えること。	図4位数の多様な見方について考え、説明している。
まとめ 下p. 63 1時間			
11	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげ」に取り組む。 	図基本的な学習内容を身につけている。

14. 長さを はかろう [長いものの長さの たんい] 下p. 64~70

[指導時期] 1月下旬~2月上旬 [指導時数] 7時間

- 【単元の目標】**
- 長いものの長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、長さの測定ができるようにするとともに、長さについて量の感覚を身につけられるようにする。
 - 関・身の回りにあるものの長さに関心を持ち、量感を基に見当をつけて測定しようとする。
 - 考・上位単位の必要性に気づき、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えることができる。
 - 図・1mの物差しを用いて長さを測定することができ、その長さを適切な単位を用いて表すことができる。
 - 知・長さについて単位と測定の意味や、単位の関係を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 長いものの長さのたんい 下p. 64~69 4時間			
1	【プロローグ】 ・ p. 64の写真をしながら自分の体の一部を測定することで既習事項を振り返ったり、昔は、体の一部が長さの単位として用いられていたことにふれたりして、長いものの長さへの興味・関心を高める。 ・ 所要時間は30分程度		
	○長さを表す単位「メートル(m)」を知り、1m=100cmの関係を理解する。	・ 両手を広げた長さを30cm物差しではかる。 ・ 120cmについて、上位単位の必要性を考える。	関上位単位の必要性に気づき、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えている。 図長さを表す単位「メートル(m)」と、1m=100cmの単位関係を理解している。
2		・ 長さの単位「メートル(m)」を知り、1m=100cmの関係を確認する。 ・ 床から1mの高さだと思う体の箇所を予想し、1m物差しを使って確かめるとともに、床から1mの高さにある体の箇所を把握する。	
3	○m, cmの単位を用いて、長さを表すことができる。	・ 「メートル(m)」、「センチメートル(cm)」を用いて、長さを表す。 ・ 棒をつないだ全体の長さを、加法を適用して求める。 ・ 指定された長さについて、適切な単位を選ぶ。	図mやcmを用いて、長さを表すことができる。
4	○測定活動を通して1mの量感を養う。	・ 1m物差しを使って、いろいろなものの長さを見当をつけてからはかる。	図量感を基に、見当をつけて長さを測定しようとしている。 図1m物差しを使って、長さを正しく測定することができる。
まとめ 下p. 69~70 3時間			
5・6	○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、長さについての興味を広げる。	・ [やってみよう]「テープものさし」を作成し、いろいろなものの長さを測定する。	図学習内容を適切に活用し、活動に取り組もうとしている。
7	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・ 「しあげ」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

*おぼえているかな? 下p. 71 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・ 「おぼえているかな?」に取り組む。	図既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	---------------------	------------------------

15. 図をつかって考えよう [たし算とひき算] 下p. 72~81

- 【単元の目標】 ○ 加法と減法の相互関係について理解して、場面を式に表したり式を読み取ったりし、問題を解決する能力を伸ばす。
- 関 ・ 加法と減法の相互関係に関心を持ち、場面を図に表すことよさに気づいて問題の解決に用いようとする。
- 考 ・ 場面を図に表して構造をとらえ、式について考え表現することができる。
- 技 ・ 加法と減法の相互関係を表した図を用いて、図や式に表し、問題を解決することができる。
- 知 ・ 加法と減法の相互関係について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) たし算と ひき算 下p. 72～80 6時間			
1	〔プロローグ〕 ・ p. 72の図を見て、既習の加減計算を表した図について話し合い、テープ図の特徴をとらえる。 ・ 所要時間は10分程度		
	○テープ図を見ながら、数量の関係をとらえることを通して、加法と減法の相互関係を理解する。	・ テープ図を見ながら、数量の関係をとらえる。 ・ 色紙の総数、赤い色紙の枚数、青色紙の枚数を求める場合についてテープ図を基にそれぞれの問題構造を把握し、答えを求める式を考える。 ・ テープ図を基にそれぞれの問題構造を把握し、答えを求める式と答えを求める。	関加法と減法の間を簡潔にとらえられるというテープ図のよさに気づき、場面を表そうとしている。 関加法と減法の相互関係を理解している。
2	○加法逆の減法（未知数が後に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。	・ テープ図や、□を用いた式に表して、数量の関係をとらえる。 ・ 加法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	関場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法の問題を解決することができる。 関未知数を□として式に表せることを理解している。
3	○減法逆の減法（未知数が後に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。	・ テープ図や、□を用いた式に表して、数量の関係をとらえる。 ・ 減法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	関場面をテープ図に表し、減法逆の減法の問題を解決することができる。 関未知数を□として式に表せることを理解している。
4	○減法逆の加法（未知数が先に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。	・ テープ図や、□を用いた式に表して、数量の関係をとらえる。 ・ 減法逆の加法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	関場面を表したテープ図を基に、減法逆の加法の問題を解決することができる。 関未知数を□として式に表せることを理解している。
5	○加法逆の減法（未知数が先に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。	・ テープ図や、□を用いた式に表して、数量の関係をとらえる。 ・ 加法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	関場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法の問題を解決することができる。 関未知数を□として式に表せることを理解している。
6	○減法逆の減法の問題づくりを通して、場面をテープ図や式に表現し、問題を解決する力を伸ばす。	・ 減法逆の減法の問題づくりを行う。 ・ つくった問題場面をテープ図に表し、問題を解決する。	関場面を図に表して構造をとらえ、式について考え、説明している。 関場面を表したテープ図を基に、減法逆の減法の問題を解決することができる。

まとめ 下p. 81 1時間		
7	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。 ☒基本的な学習内容を身につけている。

* おぼえているかな? 上p. 82 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。 ☒既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--

16. 分けた 大きさの あらわし方を しらべよう [分数] 下p. 83~87

〔指導時期〕 2月中旬~2月下旬 〔指導時数〕 4時間

- 【単元の目標】 ○ 分数を用いるともものを半分や四半分にした大きさを表せることを知り、日常生活の中で分数を用いる能力を身につけられるようにする。
- ☒ ・身の回りにあるものの大きさを、二分の一や四分の一を使って表そうとする。
- ☒ ・分数の大きさについて、元の大きさや分けた大きさはすべて等しいことに着目して考えることができる。
- ☒ ・紙などを折って、元の大きさの二分の一や四分の一を作ることができる。
- ☒ ・半分や四半分にした大きさを、それぞれ元の大きさの二分の一、四分の一といい、 $1/2$ 、 $1/4$ と書くことを理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 分数 下p. 83~87 4時間			
1	○半分にした大きさを二分の一といい、 $1/2$ と書くことを理解する。	・正方形の紙を半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。 ・二分の一の意味と書き方を知る。 ・長方形の紙を半分に折って切り、元の大きさの $1/2$ を作る。 ・元の大きさの $1/2$ かどうかを判定する	☒紙を折って、元の大きさの $1/2$ を作ることができる。 ☒半分に分けた1つ分を、元の大きさの二分の一といい、 $1/2$ と書くことを理解している。
2	○四半分にした大きさを四分の一といい、 $1/4$ と書くことを理解する。	・長方形の紙を半分の半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。 ・四分の一の意味と書き方を知る。 ・用語「分数」を知る。	☒紙を折って、元の大きさの $1/4$ を作ることができる。 ☒四半分に分けた1つ分を、元の大きさの四分の一といい、 $1/4$ と書くことを理解している。
3	○ $1/2$ 、 $1/4$ の大きさについての理解を深める。	・元の大きさの $1/2$ や $1/4$ の大きさを選ぶ。 ・元の長さの $1/4$ の長さのテープから、元の長さのテープを選ぶ。 ・八分の一の意味と書き方を知る。	☒元の大きさの $1/4$ の大きさから、元の大きさを考え、説明している。 ☒元の大きさの $1/2$ 、 $1/4$ の大きさを選ぶことができる。
4	○元の長さが違うと、その $1/2$ の長さも違うことを理解する。	・8cmの $1/2$ の長さをはかる。 ・10cmの $1/2$ の長さをはかる。 ・元の長さが違うと、その $1/2$ の長さも違うことをまとめる。	☒元の長さの違いに着目し、元の長さが違えばその $1/2$ の長さも違う理由を考え、説明している。

17. はこを作ろう [はこの形] 下p. 74~79

〔指導時期〕 2月下旬~3月上旬 〔指導時数〕 6時間

- 【単元の目標】 ○ 箱の形をしたものを観察したり作ったりする活動を通して、図形を構成する要素を理解するとともに、立体図形の基礎的な概念を理解する。
- ☒ ・身の回りにあるものの形の中から、箱の形をしたものを見つけようとする。
- ☒ ・頂点、辺、面などの構成要素に着目して、箱の形の特徴を見出すことができる。

【技】・正方形や長方形を組み合わせたり、ひごなどを用いたりして、箱の形を構成することができる。

【知】・箱の形をしたものの構成要素について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) はこの 形 下p.88~92 5時間			
1	[プロローグ] ・身の回りの箱の形をしたものを探す活動を通して、箱の形をした図形への興味・関心を高めるようにする。 ・所要時間は15分程度		
2	○箱の形（直方体や立方体）に親しみ、立体と平面の関係を知り、その面の形や数をとらえることができる。	・箱の作り方について考える。 ・用語「面」を知る。 ・箱の面を紙に写し取る。 ・紙に写し取った箱の面の形や数を調べる。	○箱の形に関心をもち、その特徴について調べようとしている。 ○箱の形について、面は6つの長方形や正方形で、向かい合った面は合同であることなどを理解している。
3	○組み立てた箱を考察することを通して、箱の形についての理解を深める。	・写し取った面の形を切り取って、同じ長さの辺や向かい合う面などに着目してつなぎ合わせ方を考える。	○同じ長さの辺や向かい合う面の特徴や関係をとらえ、組み立て方を考え、説明している。
4		・箱を組み立てる。 ・6つの面をつないで組み立てても箱の形にならない場合について、その理由を考える。	
5	○直方体や立方体の頂点、辺の数などの構成要素を理解する。	・箱の形の骨格模型を作るために必要な粘土玉（頂点）の数とひご（辺）の長さや本数を調べる。 ・1つの頂点には、違う長さの辺が1本ずつ集まることをとらえる。	○箱の形（直方体、立方体）には、頂点が8つ、面が6つ、辺が12あることなど、図形の構成要素を理解している。
まとめ 下p.93 1時間			
6	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	○基本的な学習内容を身につけている。

* 「計算ピラミッド」 下p.80~81 2時間

1	○既習内容を総合的に適用して問題を解決することを通して、問題解決の能力を伸ばす。	・計算ピラミッドに取り組み、既習の加減計算の練習をする。	○意欲的に計算ピラミッドに取り組んでいる。
2		・p.95上の問題に取り組み、下のますに同じ数を入れたときのきまりを見つける。 ・p.95上の問題で見つけたきまりが、他の数でも成り立つかどうか確かめる。	○ピラミッドの下のますに同じ数を入れたときのきまりについて考え、説明している。

* 2年の ふくしゅう 下p.96~100 3時間

1 ↓ 3	○既習内容の理解を確認する。	・問題を解決する。	○既習内容について解決の仕方を理解している。
-------------	----------------	-----------	------------------------